

日本標準商品分類番号	
872649	
承認番号	21900AMX01594000
薬価収載	2007年12月
販売開始	1992年6月
再審査結果	1994年3月

貯 法：遮光・気密容器・室温保存
(開封後は、袋の口を閉じて
保存すること。)
使用期限：3年(内袋及び外箱に記載)

外用鎮痛消炎剤
ハップスター®ID70mg
HAPSTAR®-ID70mg
インドメタシン貼付剤

【禁忌(次の患者には使用しないこと)】

- (1)本剤又は他のインドメタシン製剤に対して過敏症の既往歴のある患者
- (2)アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者
[重症喘息発作を誘発するおそれがある。]

【組成・性状】

有効成分	1枚(膏体14.0g)中インドメタシン70mg
添加物	ポリビニルアルコール(部分けん化物) ヒマシ油 ゼラチン カオリン 1-メントール 尿素 エデト酸ナトリウム グリセリン カルメロースナトリウム ポリアクリル酸部分中和物 D-ソルビトール 酒石酸 酸化チタン ジヒドロキシアルミニウム アミノアセテート メタリン酸ナトリウム ポリソルベート80 アジピン酸ジイソプロピル マクロゴール400
色・剤形	白色～淡黄色の膏体を不織布に展延した 含水性貼付剤
におい	わずかに芳香
1枚の大きさ	10cm×14cm
識別コード	📄 HID(包装に記載)

【効能又は効果】

下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎

変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、
上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛

【用法及び用量】

1日2回患部に貼付する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)

気管支喘息のある患者[重症喘息発作を誘発するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

1)消炎鎮痛剤による治療は原因療法でなく対症療法である
ことに留意すること。

- 2)皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に使用すること。
- 3)慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。また患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。

3. 副作用

次のような副作用が認められた場合には、必要に応じ、減量、
使用中止等の適切な処置を行うこと。

	0.1%～5%未満	0.1%未満
皮膚	発赤、痒痒、発疹、かぶれ	ヒリヒリ感、腫脹

*4. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用

**(1)妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。[妊婦に対する安全性は確立していない。]

シクロオキシゲナーゼ阻害剤(経口剤、坐剤)を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。

(2)他の非ステロイド性消炎鎮痛剤の外皮用剤を妊娠後期の女性に使用し、胎児動脈管収縮が起きたとの報告がある。

5. 小児等への使用

小児に対する安全性は確立していない。

6. 適用上の注意

使用時

- 1)損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
- 2)湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。
- 3)必要に応じ、テープ等で保定することが望ましい。

【薬物動態】

吸収・排泄

健康成人の背部に本剤(膏体76.8g、インドメタシンとして384mg)を貼付したとき、血漿中インドメタシン濃度は貼付後徐々に上昇し、12時間後の薬剤除去時に14.9ng/mLに達した。本剤除去後の生物学的半減期は11時間であった。¹⁾

さらに、健康成人の大腿部に1回本剤(膏体38.4g、インドメタシンとして192mg)を1日2回、28日間連続貼付したとき、血漿中インドメタシン濃度は、薬剤除去時の28日目までほぼ一定(約7ng/mL)であった。また、尿中の24時間総排泄量は、貼付7日目以降ほぼ一定値を示し、薬剤除去後3日目には除去時の約1/5に減少した。¹⁾

また変形性関節症などの患者の膝に、1回本剤(膏体19.2g、インドメタシンとして96mg)を1日2回、1.5～6日間連続貼付したとき、摘出した膝組織内のインドメタシン濃度は皮下組織から滑膜にかけて平均23ng/gであり、血清中濃度(平均1.5ng/mL)よりも高い値を示した。²⁾

【臨床成績】

- (1)変形性膝関節症を対象とした二重盲検比較試験では、有効率69.0%(80/116)を示し、本剤の基剤と比較して明確な鎮痛・消炎効果と高い有用性が認められている。³⁾
- (2)外傷後の腫脹・疼痛を対象とした比較試験では、有効率87.4%(76/87)を示し、インドメタシン軟膏と比較して同等以上の治療効果が認められている。⁴⁾

【薬効薬理】

下記の各種動物実験モデルで明確な鎮痛・消炎作用を示す。その効果はインドメタシン軟膏と同等であり、貼付部位で局所性に発揮される。⁵⁾

1. 鎮痛作用

本剤は、炎症足圧痛抑制試験(ラット)で、著明な鎮痛作用を示す。

2. 抗炎症作用

(1)急性炎症に対する作用

本剤は、血管透過性亢進抑制試験(モルモット)、カラゲニン足浮腫抑制試験(ラット)、デキストラン足浮腫抑制試験(ラット)及び紫外線紅斑抑制試験(モルモット)で、著明な抗炎症作用を示す。

(2)慢性炎症に対する作用

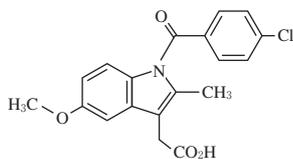
本剤は、アジュバント関節炎治療試験(ラット)で、関節炎の有意な抑制効果を示す。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：インドメタシン (Indometacin)

化学名：[1-(4-Chlorobenzoyl)-5-methoxy-2-methyl-1*H*-indol-3-yl]acetic acid

構造式：



分子式：C₁₉H₁₆ClNO₄ (357.79)

性状：白色～淡黄色の微細な結晶性の粉末である。

メタノール、エタノール(95)又はジエチルエーテルにやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

水酸化ナトリウム試液に溶ける。

光によって着色する。

融点：155～162℃

【包装】

250枚(5枚×50)

500枚(5枚×100)

700枚(7枚×100)

【主要文献】

- 1)岩倉泰一郎^{ほか}：薬理と治療，14：1357，1986.
- 2)辻本正記^{ほか}：薬理と治療，14：4221，1986.
- 3)青木虎吉^{ほか}：基礎と臨床，22：743，1988.
- 4)長屋郁郎^{ほか}：基礎と臨床，22：725，1988.
- 5)岩倉泰一郎^{ほか}：薬理と治療，11：2091，1983.

【文献請求先】

日医工株式会社 お客様サポートセンター
〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21

☎(0120)517-215

Fax (076)442-8948